

沿岸部は壊滅 気仙沼、南三陸

巨大地震、大津波襲う 多数の死者、行方不明者
電気、水道ライフライン寸断

11日午後2時46分ごろ、突然の巨大地震(東北地方太平洋沖地震)、直後に襲った大津波で、気仙沼市、南三陸町は一変した。10メートルを超える大波が一気に押し寄せ、沿岸の家々、逃げる人々を飲み込んだ。マグニチュードは8.8で、明治以降の観測史上最大となった。

気仙沼市内では石油基地のタンクが破損し、流出した油に引火して内湾は火の海に包まれた。火は何度も押し寄せた津波と一緒に陸上に上がり、魚市場前、湾沿いへ、鹿折地区まで広がって延焼拡大。ほぼ全域に火が広がり、12日も火事は収まらず、大島地区でも発生した。

地震で倒壊した家屋もあった。八日町、魚町、南町にはがれきと流された車が重なった。また、大川には無数の家屋が浮いた。波路上杉ノ下、内田、片浜、尾崎地区周辺はほとんどの家が流され、本吉町大谷、小泉、唐桑地区でも多くの家屋が流失、損壊した。南三陸町も県庁舎3階部分まで浸水、市街地は壊滅状態となった。

避難所には各小、中学校などの指定避難所、近く高台などに住民が避難。暗闇の中、不安な夜を過ごした。

12日は派遣要請を受けた自衛隊が駆けつけ、消防本部などとともに逃げ遅れた人たちの安否確認、救出などに当たった。

12日午前10時25分現在、市内64カ所に13000人が避難。気仙沼中央公民館や県気仙沼合同庁舎などには多くの人を取り残されているが、道路ががれきで寸断され、孤立状態となっている。避難所には給水車が入ったが、電気や食料、毛布などが不足し、さらに不安を募らせている。国道284号は通行でき、内陸部や県外から救援部隊が駆けつけている。

菅原茂市長は「想像を絶する災害となった。避難所では冷静な対応、救助を待っている人たちには、救助に向かっているので、もう少しがんばってほしい」と呼び掛けている。

勇気を出してがんばろう